

問1 5世紀、ヤマト政権の王たちは「倭の五王」として中国の南朝に相次いで使者を送りました。当時の王たちが、朝鮮半島での軍事的な立場を有利にしたり、国内の支配体制を安定させたりするために、中国の皇帝から得ようとしたものは何ですか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)

1. 仏教を正式な国教とするための許可
2. 自らの地位や権威を証明する称号
3. 律令制度を導入するための法典や教本
4. 遣隋使や遣唐使を派遣するための正式な国交

問2 5世紀頃、日本の王たちが中国の皇帝に使節を送った背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 鳥取県公立入試 類似)

1. 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的な外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。
2. 後漢の皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かり、九州北部における小国の連合を束ねる権威を確立するため。
3. 遣唐使を廃止することで大陸との交流を制限し、日本独自の国風文化を育むとともに、律令国家の形成を早めるため。
4. 仏教を日本に広めるために、中国から高僧を招くとともに、寺院建築や経典などの進んだ文化を公的に導入するため。

問3 古墳時代の東アジアにおける対外関係と文化の流入について、その背景と内容を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)

1. 大陸との交流は小規模な民間貿易に限られており、国家間の正式な外交や技術導入は行われていなかった。
2. 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。
3. 中国大陸の南朝とのみ交流し、朝鮮半島の高句麗や新羅とは敵対関係にあったため、半島由来の文物は存在しない。
4. この時期の日本は大陸から完全に孤立しており、大陸の文化が流入し始めたのは平安時代以降である。

問4 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島から日本列島へ移り住み、大陸の高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)

1. 防人
2. 御家人
3. 遣隋使
4. 渡来人

問5 西ローマ帝国が滅亡した476年ごろから、遣隋使が派遣される607年ごろまでの期間における、日本列島と周辺地域の交流の様子を説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2026年 高知県公立入試 類似)

1. 対馬などの沿岸部を拠点とする集団が、食料や人々を奪うために大陸沿岸を襲撃した。
2. 朝鮮半島の戦乱を避けて移住してきた人々が、養蚕や機織り、文字などの技術を伝えた。
3. 朝鮮半島の国家から将軍の代替わりごとに公式な使節団が派遣され、儒教の交流が行われた。
4. シルクロードを経由して西アジアの文化が直接日本の庶民の生活に浸透した。

問6 5世紀のヤマト王権の有力者たちは、当時の中国において、政治的な正当性や朝鮮半島での軍事的な立場を認めてもらうために使者を派遣しました。このとき、ヤマト王権が朝貢を行った中国の王朝の総称として正しいものを選択してください。 (2024年 三重県公立入試 類似)

1. 北朝
2. 南朝
3. 隋
4. 唐

問7 中国の歴史書『宋書』倭国伝には、5世紀に中国の南朝へ相次いで使者を送り、自身の地位を認める称号を求めた「讃・珍・濟・興・武」という5人の王が登場します。これらの王を総称して何と呼びますか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)

1. 渡来人
2. 倭の五王
3. ヤマトの大王
4. 遣隋使

問8 古墳時代、朝鮮半島から日本列島に移り住んだ人々によって、新たな土器の製作技術が伝えられました。専用の窯（かま）を用いて高温で焼成されることで、それまでの土器に比べて非常に硬く、色が灰色をしていることが特徴の土器を何と呼びますか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)

1. 弥生土器
2. 須恵器
3. 縄文土器
4. 土師器

問9 「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)

1. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した
2. 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた
3. 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した
4. 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報を収集した

問10 鳥取県内最大級の北山古墳が築造された400年頃（5世紀）の、日本と中国の関係について述べた記述として正しいものはどれですか。 (2017年 鳥取県公立入試 類似)

1. 小野妹子が遣隋使として中国へ派遣され、中国の皇帝と対等な外交関係を結ぶことで、東アジアにおける独立性を保とうとした。
2. 邪馬台国の女王である卑弥呼が魏の皇帝に使節を送り、親魏倭王の称号とともに金印や銅鏡を授かった。
3. 倭王たちが中国の王朝へ使節を送り、自らの地位を正式に認めさせることで、国内での権威や統治の正当性を高めようとした。
4. 平城京を中心とした律令政治が行き詰まったため、中国との公的な外交を断絶し、地方独自の勢力が古墳を築いた。

問11 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、漢字や儒教、仏教などの大陸文化や、優れた製作技術を伝えた人々を何と呼びますか。 (2021年 鳥根県公立入試 類似)

1. 渡来人
2. 遣隋使
3. 防人
4. 御家人

問12 滋賀県のある古墳群のように、この時期に築造された前方後円墳などの古墳文化は、当時の東アジア情勢と深く関わっています。4世紀末から5世紀にかけての、日本（倭）と朝鮮半島諸国との関係についての説明として正しいものを次から選びなさい。 (2024年 滋賀県公立入試 類似)

1. 日本は新羅と強固な同盟を結び、高句麗を滅ぼして朝鮮半島北部に領土を広げた
2. 当時の日本は聖徳太子を中心に、隋に対して「日出づる処の天子」で始まる国書を送ることに専念し、半島情勢には介入しなかった
3. 日本は高句麗と連合して百済を攻め、その見返りとして仏教の公伝を受けた
4. 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている

問13 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌（きんぞうがん）によってある人物の名前が刻まれていました。この鉄剣に記されていた大王の名として正しいものを選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)

1. 聖徳太子
2. 卑弥呼
3. 中大兄皇子
4. ワカタケル大王

答え合わせ・解説

問1	答え 2 自らの地位や権威を証明する称号	5世紀の朝鮮半島では高句麗が南下政策をとっており、ヤマト政権は百済や加耶（加羅）との関係を維持するために、中国の皇帝から軍事指揮権を含む官号（称号）を得る必要がありました。中国という巨大な帝国の権威を借りることで、国際的な立場を強めると同時に、日本国内の豪族たちに対する支配の正当性を主張しようとしたのが主な目的です。
問2	答え 1 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的・外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ繰り返し使節を派遣しました。当時の倭王は、朝鮮半島における軍事的な指揮権を含む称号を中国の皇帝から授かることで、国際的な地位を確立し、周辺諸国との外交を有利に進める狙いがありました。また、これに伴い鉄製武器の製造技術や須恵器などの新しい技術を大陸から導入し、国内の支配力を高めていきました。
問3	答え 2 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。	古墳時代の日本（倭）は、朝鮮半島の高句麗・百済・新羅・加耶、そして中国の諸王朝と政治的・経済的な結びつきを強めていました。この交流を通じて、大陸の進んだ技術や文化が日本列島へもたらされました。具体的には、乗馬の風習とともに伝えられた「馬具」や、高度な鑄造技術による「銅製水瓶」などが各地の有力者の古墳に副葬されており、これらは当時の対外関係の重要性を物語る重要な資料となっています。
問4	答え 4 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、4世紀から7世紀頃にかけて日本列島へ移住した人々です。彼らは大和政権（ヤマト王権）に伝え、漢字、儒教、仏教のほか、須恵器の製作技術や土木、養蚕、機織りなどの高度な技術を伝え、古代日本の国家形成に大きな影響を与えました。
問5	答え 2 朝鮮半島の戦乱を避けて移住してきた人々が、養蚕や機織り、文字などの技術を伝えた。	この時期、朝鮮半島での戦乱を背景に多くの人が日本列島へ渡り、大和政権の国づくりに協力しました。彼らが伝えた技術は、灌漑施設などの大規模な土木工事や鉄器の製作、機織りなど多岐にわたり、古代日本の社会構造を大きく変える要因となりました。選択肢にある倭寇（海賊行為）は中世以降、朝鮮通信使（公式使節）は江戸時代の出来事であり、時代背景が異なります。
問6	答え 2 南朝	5世紀の中国は、華北を支配する北朝と、江南を支配する南朝に分かれて対立していました。地理的に南に位置する王朝と交流しやすかったヤマト王権は、南朝の諸王朝へ「倭の五王」と呼ばれる王たちが相次いで使者を送り、朝貢を行いました。
問7	答え 2 倭の五王	5世紀に中国へ使者を送った5人の王は「倭の五王」と呼ばれます。当時の日本（倭国）は、東アジアの国際情勢の中で有利な立場を得るため、中国皇帝を中心とした冊封体制（朝貢外交）に加わり、自らの権威や軍事的な指揮権を証明する称号（官職）を求めて外交を展開しました。
問8	答え 2 須恵器	古墳時代、朝鮮半島から移住した渡来人によって、穴窯（あながま）を用いた最新の作陶技術がもたらされました。従来の土師器（はじき）が野焼きで焼かれる赤褐色の土器であったのに対し、須恵器は1000度以上の高温で焼成されるため、実用性が高い硬質な土器として普及しました。
問9	答え 2 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大將軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問10	答え 3 倭王たちが中国の王朝へ使節を送り、自らの地位を正式に認めさせることで、国内での権威や統治の正当性を高めようとした。	4世紀から5世紀にかけて、日本各地で大規模な前方後円墳が築造された時期は、近畿地方を中心とする大王（王権）が勢力を広げていた時期に重なります。この頃の倭王は、中国の王朝に貢ぎ物を届けて「倭王」としての称号を得ることで、その強大な権力を国内外に示しました。これは1世紀に奴国の王が金印を授かった頃に比べ、より広域で組織的な統治が始まっていたことを示しています。
問11	答え 1 渡来人	朝鮮半島での動乱などを背景に、優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ渡ってきました。彼らは大和政権に伝え、文字（漢字）の記録や外交、土木技術、金属工芸などの分野で重要な役割を果たし、日本の古代国家形成に大きな影響を与えました。
問12	答え 4 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている	当時の日本（倭）は、鉄資源の確保や先進文化の導入を求めて朝鮮半島南部への進出を図りました。高句麗にある好太王碑には、南下政策を進める高句麗と、百済や加羅を支援して戦った倭の軍勢についての記録が残されており、当時の激しい抗争の様子が裏付けています。
問13	答え 4 ワカタケル大王	埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、115文字の漢字が刻まれており、その中に「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」という名が見られます。この大王は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、『日本書紀』に登場する雄略天皇にあたると考えられています。